

令和8年度第1回幼・保・小連携推進協議会

7月3日、第1回幼・保・小連携推進協議会を行いました。幼稚園及び認定こども園代表・保育所代表・小学校長会代表・小学校副校長会代表・行政機関の長が委員として出席しました。これまでの幼保小連携の経過、「令和7年度幼保小連携に関するアンケート」の結果、今年度の主な取組等についての行政説明後、各地区で作成された架け橋期のカリキュラムや、幼児教育と小学校教育の接続による教育・保育について協議しました。委員のご意見の一部を紹介します。



令和8年度の方向性【重点】 行政説明より

「令和7年度幼保小連携に関するアンケート」の結果を受け、「**連携の成果を『実践・活用』**するステージへ」を今年度の方向性（重点）として示した。



話し合ったことが引き継がれていくよう、その内容が反映されるカリキュラムへ
*園にできること、学校にできることは？
*作成した架け橋期のカリキュラムを基に
子どもの姿や教育・保育を振り返る
→実際の子どもの姿はどうだったか？
*子どもの遊びや学びの深まり、主体性、
環境構成や手立てに着目
*連携による教育・保育、子どもの学びや
生活の変化に着目

園校における「育ちと発達」をお互いに知らない、架け橋期のカリキュラムを作成することは難しい。

市内のよい例を参考として示すと、大切な視点に気付くのでは？

5歳児では協同性と探究心の視点が必要である。

架け橋期のカリキュラムを見ると、「遊びを通して」が抜け落ちているのでは？

園は遊びから学ぶが、大切なのはその後の育ちをとらえることである。

小学校の授業では“学びと遊びの循環”を意識してほしい。

実践の事例を作れば、誰もがイメージしやすく、分かりやすいのでは？

カリキュラムができた後の実践・検証が必要である。PDCA サイクルが大切であり、「C:check」の段階に来ている。チェックが適切に行われるような研修が必要である。

幼保小連携研修1回目に前担当者と現担当者が一緒に出席してくれた。
これまでの過程が引き継がれ、継続・連携しやすかった。仕組みとしておすすめしたい。